

2022年度決算・2023年度予算

【2022年度決算】

事業活動計算書の収益は、7,145,015千円で予算に対して0.7%下回り、前年に対しては3.4%伸張しました。新規事業として農仲舎八街（八街市・就労継続支援B型事業所）の開所、千葉市あんしんケアセンター磯辺（千葉市・地域包括支援センター）の受託がありました。また、ケアプランセンターオリーブ（船橋市・居宅介護支援事業所）、ショートステイさくら（佐倉市・短期入所生活介護）を閉所しました。経常増減差額は、50,726千円で予算より19,770千円下回り、前年実績より103,841千円上回りました。経常増減差額率は0.7%（前年△0.8%）です。

【2023年度予算】

法人全体の予算は、サービス活動収益計画を7,547,444千円（前年実績対比105.6%）、サービス活動費用計画を7,427,071千円（前年対比104.2%）、経常増減差額129,654千円の編成です。経常増減差額率は1.7%（前年実績0.7%）となります。最終的な当期活動増減差額は129,854千円で編成しました。予算は各事業所の数値を合算しています。前期繰越活動増減差額は、予算編成時点での予測値です。計数整理の結果、若干変動を生じる場合があります。

事業活動計算書（2022年度決算：2023年度予算）

単位：千円

勘定科目		2022年度決算 金額	前年比 (21年度実績対比)	2023年度予算 金額	前年比 (22年度実績対比)	
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	4,144,619	116.6%	4,256,463	102.7%
		老人福祉事業収益	301,064	101.8%	327,778	108.9%
		児童福祉事業収益	538,690	105.3%	643,337	119.4%
		保育事業収益	590,191	105.7%	579,042	98.1%
		就労支援事業収益	20,653	239.6%	38,282	185.4%
		障害福祉サービス等事業収益	949,449	106.2%	1,047,241	110.3%
		医療事業収益	203,908	119.0%	215,903	105.9%
		その他の事業収益	364,883	92.2%	413,061	113.2%
		建物貸付事業収益	22,374	107.9%	23,924	106.9%
		ヘルパー講座事業収益	638	120.8%	0	-
		経常経費寄附金収益	8,490	57.4%	1,113	13.1%
		その他の収益	50	-	1,294	2589.6%
		サービス活動収益計(1)	7,145,015	103.4%	7,547,444	105.6%
	費用	人件費	5,163,455	105.8%	5,372,486	104.0%
事業費		578,853	103.7%	639,332	110.4%	
事務費		809,455	79.3%	844,872	104.4%	
就労支援事業費用		35,803	393.3%	42,051	117.4%	
福祉用具事業費用		293,483	106.2%	282,891	96.4%	
減価償却費		331,603	98.9%	336,585	101.5%	
国庫補助金等特別積立金取崩額		△84,518	96.6%	△91,178	107.9%	
徴収不能額 他		1,022	421.3%	30	2.9%	
サービス活動費用計(2)		7,129,158	101.8%	7,427,071	104.2%	
サービス活動増減差額(3) = (1) - (2)		15,856	△17.6%	120,373	759.1%	
外増減の部	収益	サービス活動外収益計(4)	54,414	94.1%	26,700	49.1%
	費用	サービス活動外費用計(5)	19,544	93.6%	17,420	89.1%
	サービス活動外増減差額(6) = (4) - (5)		34,869	94.4%	9,280	26.6%
経常増減差額(7) = (3) + (6)		50,726	△95.5%	129,654	255.6%	
特別増減の部	収益	特別収益計(8)	53,063	40.9%	267,722	504.5%
	費用	特別費用計(9)	104,346	79.5%	267,522	256.4%
	特別増減差額(10) = (8) - (9)		△51,282	3400.5%	200	-
繰越活動増減差額の部	当期活動増減差額(11) = (7) + (10)		△556	1.0%	129,854	-
	前期繰越活動増減差額(12)		891,441	108.6%	923,928	103.6%
	当期末繰越活動増減差額(13) = (11) + (12)		890,885	116.2%	1,053,782	118.3%
	その他の積立金取崩額(14)		31,822	16.5%	21,813	68.5%
	その他の積立金積立額(15)		37,271	54.7%	6,600	17.7%
次期繰越活動増減差額(16) = (13) + (14) - (15)		885,436	99.3%	1,068,996	120.7%	

*2023年度予算の「前期繰越活動増減差額」は予算編成時点での予測値で編成しています。

理事長ご挨拶



1年前に「つうしん」で就任挨拶をされた前理事長水谷靖之さんが2023年2月19日に病気で急逝されました。就任後わずか8ヶ月であり、私たちには大変ショックな出来事でした。後任となった私は1982年に当法人の母体である生活クラブ生協に入職し、以来、41年間に渡って生活クラブ関連の仕事を続けてきました。1994年に生活クラブ生協が全国で初めて訪問介護事業を開始した際には池田元理事長指導の下、たすけあいネットワーク事業部長として業務遂行にあたり、社会福祉法人設立、特養ホーム八街建設準備に関わってきました。池田さん、水谷さん、そして3年前に亡くなった元常務理事の寒河江さんとは40年以上の長いお付き合いとなっています。寒河江さんも水谷さんも私よりも若く、まさか私が残されることになるのは全く予想できませんでした。しかし、理事長に就任して5カ月が経ち、亡くなった2人の思いを背負って前に進んでいこうと思っています。

昨年度の水谷さんのご挨拶にあったように、当法人はこの3年間大変厳しい経営状況に置かれています。2022年度はなんとか黒字にはなりましたが、あるべき姿にはほど遠く、さらに大きな改善が必要です。7月1日には児童養護施設はぐくみの杜かしわがオープンしました。はぐくみの杜君津、はぐくみの杜君津赤ちゃんの家につき3つめの社会的養護施設です。子どもの数は減っているのに虐待件数は増えており、親とっしょに暮らせない子どもが多くなっています。

風の村 つうしん 2023年7月

地域からの信頼に応えられるよう
全員参加型経営で生活クラブ風の村を
さらに力強い組織にしていきます

理事長 三好 規
Tadashi Mizoguchi

孤独な子育て中の親を地域で包摂する力が弱まっています。個人が尊重され、プライバシーを侵さない行動が地域の子どもの無関心につながっているとも言えます。この事業に携われるのは自治体か社会福祉法人に限られており、社会福祉法人に大きな使命が与えられていると言っているでしょう。そうではない方がもちろん良いのですが、現状は社会的養護施設が圧倒的に不足しており、子育て支援と並行して子どもの命を守るために私たちはさらなる行動をとらなくてはならないと考えます。

食料自給率は38%になりました。ウクライナ侵攻の問題から世界情勢が不安定になり、防衛費を3兆円も増やす計画となっていますが、どんなに軍備増強しても孤立すれば我々は餓死することになります。最大の防衛は食料自給率を高めることであり、そこにお金を使うことが重要です。就労支援B型事業所農仲舎は後継者がいない農地を借りて農業を守り続ける活動に取り組んでいます。小さな一歩ですが地元農業者の皆さんから大きな期待が寄せられています。高齢者介護事業から始まった風の村はやはりそれが最大の事業であり、ケアの質向上とともに経営の屋台骨にしなければなりません。そして高齢者だけでなく、障がい者、こども、農業、生活困窮者などあらゆる人々のよりどころとなるよう地域の皆さんとともに努力を積み重ねていく所存です。応援してください。